



歴史のドアを開けよう

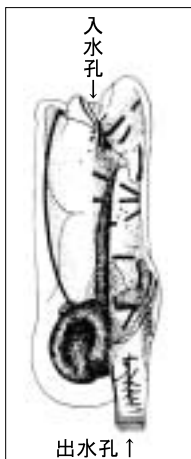
Natural History
第56回

いしかり博物誌

■文化財課 ☎72-6123
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107
ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

図1



▶サルパの構造
『日本海洋プランクトン図鑑』
山路勇著 1966年

石狩浜には、いろいろなものが漂着しています。5月の砂浜を歩いていたら、透明で軟らかそうな物体を見つけた(写真)。クラゲか? と思いながら近づいてみると、ちよつと違います。外形は丸くなく、まるで草履(ぞうり)のようです。長さは15cmくらい。透けて見える内部には内蔵

「」の春、サルパを拾いました。



▲石狩浜に漂着したサルパ。
全長約15cm

のようなものがあるので、すでに死んでいます。動物であることは間違いありません。触ってみると予想外に、ゴムのような弾力があります。落ち着いて周りをよく見ると、同じような物体がいくつも転がっていました。とりあえず資料館に持ち帰りました。

翌日

日、館のスタッフがインターネットでそれらしきものを見つけたので、図鑑でも確認したところ、正体が判明しました。「サルパ」です。原索動物(魚や鳥、ほ乳類など脊椎動物の祖先に当たる)の一種で、食卓にも上るホヤの仲間です。スキューバダイビングで目撃されたり、魚網に掛かることがあります、その世界では知られているようです。



▲南から漂流物を運ぶ対馬暖流

サルパは本来、暖かい海で生活しています。それを北海道まで運んできたのは、赤道太平洋に起源を

「入水孔」と呼ばれる口をパクパクさせて海水を吸い込み、小さなプランクトンなどを漉し取って食べています(図1)。1匹だけいることもありすが、鎖のように何十匹もつながって漂っていることもあるそうです。石狩浜に漂着していたのは、そのタイプの残骸(さんがい)だったのかもしれませんが。

皆さんも浜辺を歩くときは足もとに注意してみましよう。謎の生物が見つかるかもしれませんよ。

(いしかり砂丘の風資料館 志賀健司)

謎の漂着物!?

お知らせ

7月10日(土)、野外講座「石狩ビーチコーマーズ/漂着物の博物誌」を開催します。(22ページをご覧ください)